

# 修得単位の目安

1 年 生 修 了 時	・ ・ ・ ・ ・	3 6 単 位
2 年 生 修 了 時	・ ・ ・ ・ ・	7 8 単 位
3 年 生 修 了 時	・ ・ ・ ・ ・	1 1 2 単 位
卒 業 単 位 数	・ ・ ・ ・ ・	1 2 6 単 位

\* 3 年次への進級条件

「基礎ゼミ ・ 」及び1年次の必修科目を含み36単位以上修得していること。

## 授業科目について

### 1. 学科共通科目群

学科共通科目群は、同（英語）、同（情報科学）の2系列に分かれています。それらの各科目群のうちから所定の単位以上を修得します。

#### (1) 学科共通科目群（英語）

国際交流学科の特徴の一つとしては、充実した英語教育が挙げられます。とくに1年次には、英語を集中的に学び、実践的な英語力を身に付けるために6科目14単位を必修とし、2年次には3科目6単位を必修としています。英語の必修科目については、原則として能力別のクラス分けを行い、各学生に履修すべきクラスを指定しますので、必ずそのクラスを履修することになります（個人の都合で指定されたクラスを勝手に変更することはできません）。能力別クラス編成のため後期末試験期間（新入生の場合には年度当初）に英語能力テストを実施するので、このテストを必ず受けることとなります。

#### (2) 学科共通科目群（情報科学）

これからの情報化社会で必要とされる、パソコンやインターネットなどに関する知識と技能を修得し、実務能力を養う科目を配置しています。1年次にはこれらの科目を必修として学び、これと合わせてマイクロソフトの技能資格を取得することを推奨しています。

### 2. 学部コア科目群

学部コア科目群は、国際文化学科と共通する科目を配置しています。グローバル化する文化や社会、コミュニケーションのありかたを多様な切り口から学び、国際化社会に生きる人間としての教養を身につけ、人文学を学ぶことの意義を明確にしていきます。

なお、留学を予定する者は、「留学プランニング」を履修することを推奨しています。

### 3. 国際教養科目群

基礎的な国際教養を身に付けるための科目を配置しています。国際社会で活躍するために国際教養は必須です。世界の中の日本、人間と社会、地球の未来、スポーツとジェンダーについて学びます。なかでも「国際日本学」「政治学入門」「経済学入門」は必修科目です。

\* 2014年度生以上は、「国際日本学a」が必修科目です。

### 4. 専門基礎科目群

専門基礎科目群は、専門基礎科目群（世界の文化と言語）と専門基礎科目群（国際交流基礎論）との2科目群で構成されています。

(1) 専門基礎科目群 (世界の文化と言語)

世界の言語と文化について学ぶ科目群であり、英語(留学生においては日本語)以外の第二外国語を必修としています。グローバル化が進み、英語プラスもう一ヶ国語の能力が求められるようになってきているので、第二外国語も英語同様にぜひマスターすることを推奨しています。

(2) 専門基礎科目群 (国際交流基礎論)

国際交流・国際協力・文化交流の基礎を学ぶ科目群です。

「海外活動」は、サマーセミナー、ウインターセミナーなどの海外活動プログラムに参加して一定の事前・事後指導を受け、単位の取得が認められた場合に認定される科目です。

## 5. 専門科目群

国際交流学科の専門科目は、5科目群に分かれています。「専門科目群 (国際アドミニストレーション)」と「専門科目群 (国際コミュニケーション)」は、「国際アドミニストレーションコース」と「国際コミュニケーションコース」の2つのコースにそれぞれ対応する科目群です。それぞれのコースでの専門性を高めるために、国際アドミニストレーションコースの学生は、専門科目群 より 12 単位以上、国際コミュニケーションコースの学生は、専門科目群 より 12 単位以上修得することとなっています。正式にどちらかのコースに所属するのは、演習を選択する3年次からですが、どのコースを選択するかを1年次から意識しながら計画的に履修し、系統立てて学習することが必要です。また、「専門科目群 (英語プロジェクト)」と合わせて専門科目群 ・ ・ 合計で、30 単位以上修得する必要があります。さらに「専門科目群 (演習)」と「専門科目群 (専門関連科目群)」「専門科目群 (International Exchange Studies)」があります。

(1) 専門科目群 (国際アドミニストレーション)

日本と他地域との関係、国際社会、国際関係、国際開発、NGO などについて学ぶ科目群で、国際的な組織で活躍するアドミニストレーターの育成を目指しています。

(2) 専門科目群 (国際コミュニケーション)

言語、異文化などを切り口に国際コミュニケーションについて学ぶ科目とともに、ビジネス上のコミュニケーション能力を養うための科目を配置しています。

(3) 専門科目群 (英語プロジェクト)

英語によるプロジェクト教育科目、日英の翻訳・通訳関係の科目、児童英語教授法の科目などを配置し、英語を実践的に学ぶ科目群です。

(4) 専門科目群 (演習)

基礎ゼミ・演習 8 単位が必修です。1年次・2年次は基礎ゼミを通して基礎教育を実施しています。3年次・4年次は、全員がいずれかの演習に所属して、綿密な少人数教育を受けていきます。他に、研修・インターンシップ科目や卒業論文も選択できます。

(5) 専門科目群 (専門関連科目群)

日本語教授法を中心とした日本語関連科目、及び専門に関連する科目を学ぶ科目群です。

(6) 専門科目群 (International Exchange Studies)

4年間英語で学ぶ学生のための科目を置いています。授業は全て英語で行い、通常の学生も、この科目群の授業を履修することができます。

## 6 . Global College 科目群

世界で通用するグローバル人材を目指して、ビジネス、政治、異文化理解、文化、文学など幅広い教養を英語で学ぶことができる科目を配置しています。

## 7 . 特設科目群

本学科の専門分野の知見を深めたうえで、さらにグローバル社会を担う人材となるために、海外において語学実践力を養う科目を配置しています。

## 8 . 自由科目群

自由科目とは卒業に必要な単位数に加算されませんが、自由に選択履修することのできる授業科目です。国際交流学科では、下記の教職課程の科目が配置されています。

中学校教諭一種免許状	社会	英語
高等学校教諭一種免許状	公民	英語

# 児童英語指導員

## 児童英語指導員について

2014年より、小学校5・6年次において英語が必修になりました。それに伴い、早期英語教育への関心はますます高まっています。児童に英語を教えるということは、音声重視ということと、英語に対する興味を抱かせるという点において、中高生の指導法とは異なります。児童英語指導員養成講座では、児童の発達段階を考慮し、早期英語教育に対応できる英語教師を養成することを目的とします。

## 課程修了認定について

現時点では、児童英語指導員には、資格認定や免許制度がありません。大学や専門学校などの養成機関は、それに基づいてカリキュラムを組み、それぞれに課程修了認定を行っています。

本学も、所定の単位を修得した学生には、独自の課程修了認定証を発行します。修了証が必要な場合は、卒業時あるいは卒業後に、所定の手続きにより発行申請してください。

## 課程修了認定に必要な単位について

児童英語指導員養成課程に関する科目は、国際人文学部国際交流学科に設置されています。

以下の表にしたがって、合計34単位（必修30単位、選択4単位）を取得することで、修了認定証が交付されます。なお、これらの科目はすべて卒業要件単位にも含まれます。

領域	科目名	科目群	履修年次	単位	必修 選択	【参考】 英語教免
児童英語教育	英語科教育法	自由科目群	3	2	必修	必修
	児童英語教授法	専門科目群	2・3	2	必修	
	児童英語教授法	専門科目群	2・3	2	必修	
	English Teaching Methodology	専門科目群	2・3	2	必修	
	English Teaching Methodology	専門科目群	3・4	2	必修	
児童英語	英米児童文学 a	専門科目群	2・3	2	必修	
	英米児童文学 b	専門科目群	3・4	2	必修	
	Oral English for Children a	専門科目群	2・3	2	必修	
	Oral English for Children b	専門科目群	3・4	2	必修	
児童心理	発達心理学	専門科目群	2・3	2	必修	
英米文学	アメリカ文学概論	専門科目群	1・2	2	必修	必修
	近代イギリス文学	専門科目群	2・3	2	必修	必修
言語学	英語学概論 a	専門基礎	1・2	2	必修	必修
	英語学概論 b	専門基礎	1・2	2	必修	必修
	Basic Writing Skills	学科共通	1	2	必修	必修
英米文化	アメリカ文化概論	他学科(国際文化学科)	1・2	2	2科目4単 位選択必修	選択
	異文化間コミュニケーション論	専門科目群	2・3	2		必修
	比較文化概論	専門科目群	1・2	2		選択
	ヨーロッパ世界とアメリカ	他学科(国際文化学科)	2・3・4	2		選択

# 日本語教員養成課程

## (副専攻)

### 日本語教員について

日本語教育とは、日本語を母語としない人に、外国語としての日本語を教えるもので、日本人が国内の学校制度で受けてきた国語教育とは異なります。

日本人だから日本語を教えるのは簡単だと思いがちですが、実際は、逆に、高度な専門的な知識が必要とされます。グローバルな視点から日本語を分析・説明すること、日本の文化や社会を誤解のないように紹介すること、文化的に異なる背景を持つ人々のグループを適切に指導すること、などの能力が求められます。

日本語を学ぶ人の数はこの 20 年ほどで増加しており、日本語教員を目指す人の数も増えています。就職はそれほど容易ではありませんが、国際化社会にともなって日本語教員の需要は増大するばかりです。日本語教員の活躍の「場」は、日本国内はもちろんのこと海外の大学・中高校・小学校、日本語学校・国際交流団体、技術研修機関など、大変幅広く考えられます。今、世界の多くの人が日本語を勉強しています。これらの人々の求めに応じられる日本語教員が必要とされています。

また、日本語教員を目指す人でなくても、日本語教員としての訓練を受けた人の異文化コミュニケーション能力は、将来、海外と関連ある企業等に就職を希望する人、NPO活動のボランティアや、青年海外協力隊員として国際的に活躍したい人にとっても役立つものになるでしょう。

なお、日本語教員としての能力を認定する試験として「日本語教育能力検定試験」があります。これは日本語教育の知識および能力が日本語教育の専門化として水準に達していることを証明する検定です。本学の養成課程では、同検定に即して授業内容を構成しています。

### 課程修了認定について

現時点では、日本語教師には、資格認定や免許制度がありません。文部科学省から養成に関する指針が示されていて、大学や専門学校などの養成機関は、それに基づいてカリキュラムを組み、それぞれに課程修了認定を行っています。

本学も、所定の単位を修得した学生には、独自の課程修了認定証を発行します。修了証が必要な場合は、卒業時あるいは卒業後に、所定の書類により発行申請してください。

なお、日本語教員養成課程は副専攻となっていますので、副専攻登録手続きが必要になります。

## 課程修了認定に必要な単位について

日本語教員養成課程に関する科目は、人文学部の国際文化学科・国際交流学科に設置されています。

以下の表にしたがって、合計 33 単位（必修 23 単位、選択 10 単位）を取得することで、修了認定証が交付されます。なお、これらの科目はすべて卒業要件単位にも含まれます。

なお、2014 年度生までは、合計 33 単位（必修 25 単位、選択 8 単位）を取得しなければなりません。

### 1. 必修科目（23 単位） 2014 年度生までは必修 25 単位

領域	科目名	単位	国際文化	国際交流	備考
日本語に関する科目	日本語学概論 a	2	専門基礎	専門	
	日本語学概論 b	2	専門基礎	専門	
	日本語の音声	2	専門	専門	
	日本語の語彙・意味	2	専門	専門	
	第二言語習得論	2	専門関連	専門	
	日本語の文法 b	2	専門	専門	
日本語教授法に関する科目	日本語教授法 a (教授法)	2	専門関連	専門	「日本語教授法 b・c」を履修するには、「日本語の文法 a・b」の単位を修得していることを条件とする
	日本語教授法 b (コースデザイン・評価)	2	専門関連	専門	
	日本語教授法 c (教材・教具)	2	専門関連	専門	
	日本語教育事情	2	専門関連	専門	
実習	日本語教育実習	3	専門関連	専門	

2014 年度生まで、「日本語教育事情 a・b」の 2 科目が必修となります。

### 2. 選択科目（10 単位） 2014 年度生までは選択 8 単位

領域	科目名	単位	国際文化	国際交流	備考
関連科目	コミュニケーションの基礎	2	学部コア	学部コア	右の科目より、8 単位以上を履修すること。
	言語学概論	2	専門基礎	専門	
	日本語の文法 a	2	専門	専門	
	異文化間コミュニケーション論	2	専門関連	専門	
	社会言語学	2		専門	
	言語・非言語コミュニケーション論	2		専門	
	異文化適応論	2		専門	
	コミュニケーションインターンシップ	3	専門	専門	
	日本文化論	2	専門		
	国際日本学	2	専門	国際教養	
	多文化社会論	2	専門		
	国際関係論	4	専門関連	専門	

2014 年度生までは、「言語学概論」「日本語の文法 a」ではなく「言語学概論 a・b」です。

「国際日本学」は 2015 年度生からの科目です。

2014 年度生までは、「言語コミュニケーション論」です。

\* 副専攻となっていますので、修了証の発行を希望する場合は、副専攻の事前登録が必要になります。

# Global College 科目群

Josai Global College では、学生のみなさんが学びたい科目を英語で学ぶことができます。また、本学の学生は誰でも好きな科目を履修することが可能です。Josai Global College は、日本に居ながら英語で多様な知識と教養を身につけることができる、革新的な学びの場を提供します。

城西国際大学は、その名にふさわしく、あらゆる学生に国際的な環境を提供しています。学生は日本だけではなく、本学の提携大学があるカナダ、中国、チェコ、フィンランド、フランス、ドイツ、韓国、ハンガリー、ノルウェー、ポーランド、スペイン、アメリカなど、世界中から集まっています。このような国際的な環境の中で、学習者は互いに高め合い、国際感覚を身につけることができます。

また、本学ではクラスの中だけではなく、クラスの外でも教員と学生が日常的に交流しながら学ぶという、大変親しみやすい環境を作り上げています。Josai Global College もその例外ではありません。多様な国々の人たちと研究・教育活動をとにもすることで視野を広め、国際的なバランス感覚を養うことができます。

東京紀尾井町キャンパス開講科目を受講する学生を対象に東金キャンパスから特別に往復のシャトルバスを運行、安房キャンパスへはサテライト配信をしますので観光学部の学生も履修可能です。

## 2015 年度開講科目

科目名	開講 キャンパス	科目名	開講 キャンパス
Introduction to Japanese Literature	紀尾井町	Modernism in Architecture	紀尾井町
Japanese Literature in Translation a	紀尾井町	The Cityscape Worldwide	紀尾井町
Japanese Literature in Translation b	紀尾井町	Business and Society	紀尾井町
Modern American Literature	紀尾井町	Global Logistics	紀尾井町
Japanese Art and Literature	東金	International Finance	紀尾井町
Samurai Tradition in Edo Culture	紀尾井町	International Marketing	紀尾井町
Haiku in the World	紀尾井町	Introduction to Database Theory	紀尾井町
Kamishibai as a Medium of Entertainment, Education, and Propaganda	紀尾井町	Introduction to Global Management	紀尾井町
Japanese Art & Museum Management	紀尾井町	Strategic Management	紀尾井町
Tradition in Contemporary Japan	紀尾井町	Introduction to Tourism	安房
Theory of Acculturation: Minorities in Japan	東金	International Tourism Special Session	安房
Japan and Asia	紀尾井町	Asia Tourism Studies	安房
ASEAN and Japan a	紀尾井町	Methodologies of Cultural Observation: Travel and Dialogue	紀尾井町
ASEAN and Japan b	紀尾井町	Introduction to Social and Environmental Studies	東金
ASEAN and Japan c	紀尾井町	Ecology Policy	東金
Europe and Japan a	紀尾井町	Environmental Issues & Technology	紀尾井町
Europe and Japan b	東金	Introduction to Health Science	東金
Europe and Japan c	紀尾井町	Safety of Food and Environmental Chemicals	東金
European Art a	紀尾井町	Japanese to English Translation	紀尾井町
European Art b	紀尾井町	International Administration I (Fundamentals of Management)	紀尾井町
European Art c	紀尾井町	International Administration II (International Understanding)	紀尾井町
Cinema Studies	紀尾井町	International Administration III (Fundamentals of Thesis Writing)	紀尾井町
Japanese Film and Visual Art	紀尾井町	International Administration IV (Social Research, Design, Evaluation)	紀尾井町
Japan-U.S. Film Comparative Research	紀尾井町	Policy Studies V (NGO/NPO Policy)	紀尾井町
Representations of France in Films	紀尾井町	International Studies I (International Organizations)	紀尾井町
Representations of Paris in Films	紀尾井町	International Studies VI (International Economics)	紀尾井町
Film Industry in Hollywood	紀尾井町	Corporate Studies IV (Corporate Governance)	紀尾井町
Reading Comics in English	紀尾井町	Tourism III (Hospitality Management)	紀尾井町
Animation	紀尾井町	Tourism (International Development Policy)	紀尾井町
Sound Design	紀尾井町	Case Studies V (Development of Tourism Sites)	紀尾井町
World Civilization	紀尾井町	Japanese-English Translation I: Culture	紀尾井町
Globalization and Multiculturalism	紀尾井町	English Language Structure Analysis	紀尾井町
Gender and Culture	紀尾井町	Foundations of English Language Teaching	紀尾井町
Gender and Language	紀尾井町	Curriculum and Materials Design I	紀尾井町
Women in Asia	東金	Curriculum and Materials Design II	紀尾井町

## リベラルアーツ&サイエンス科目群

リベラルアーツ&サイエンス(LAS)センターは、本学の建学の精神に基づく人格形成、幅広い教養や知識の習得、専門分野での学業に役立つ問題意識の育成、社会人として求められる基礎能力の向上等を主たる目標として掲げています。

学生の皆さんにも、こうした問題意識をもって科目履修をしてもらうために、学部・学科ですでに開講している科目を“人格形成領域”“一般教養領域”“基礎能力領域”という3領域に大きく分けて整理し直し、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」として特別に提示しています。各々の領域は、

人格形成領域：「地球と環境」「人間と思想」「国家と規範」「倫理と社会」  
「社会とジェンダー」という5テーマ

一般教養領域：「人類のあゆみ」「文化のかたち」「社会と経済」「健康と福祉」  
という4テーマ

基礎能力領域：「非言語分野」「言語分野」「ビジネスマナー」「プレゼンテーション」  
という4テーマ

に分けてまとめてあります。いずれも、学生の皆さんが就職して社会へ出る準備をするうえで重要とされるテーマです。

これらに加えて、LASセンターが特に力を入れたい分野・テーマについては独自の科目として開講し、さらに必要に応じて開講するサマースクール等も「総合基礎教養 ~ 」として単位認定します。LASセンターが独自に開講するこれらの科目は、すべて1~4年次のいずれかで履修することができます。

「リベラルアーツ&サイエンス科目群」を履修して修得した単位は、30単位を限度として申請により、学部・学科の各科目群に振り替えることができます。「リベラルアーツ&サイエンス科目群」の履修や内容についての質問、学業に係わる相談等は、LASセンターにて随時受け付けています。